

倒して行うものであり、地区センターとの連携でどのような地域づくりができるか、また、地域づくりを支援できるか等をテーマに検証する。



新たに配置された3人の地域活動専門員

**問** 増員する2名の配置先は。

**答** 宮守地区センターを考えている。その理由は管轄エリアが広いことと、活動専門員が各地域にこまめに足を運び巡回することによりきめ細かな住民対応が可能になる。

**ボランティアコーディネーター育成委員会について**

**問** 6名を公募する旨の説明であったが進捗状況は。

**答** 緊急雇用により14名採用し、そのうちの2名は市内居住者を採用する。

**問** 遠野が自前で出来るコーディネーターを養成するための事業と理解したが、市内採用が2名とはいかがか。今後発生する市内外の災害時に、対応できる人材を育成する事が、事業の趣旨と説明されてきたが。

**答** 現在育成しているボランティアが、今後の災害時にも対応していただくものと同じ、事業を進めたい。雇用期間が短く市内採用がなかったが、遠野に対する思いの強い人が多く参加しており、そうした時も、対応が可能と思われ、遠野に残る人を発掘したい。

**問** 採用した内常任者1名という事だが、市内採用2名のうち1名の常任者が遠野市民と理解してよいか。

**答** 残念ながら、常任者1名は総括的役割を担う人で市内の人ではない。

**公共牧場再編整備事業について**

**問** 事業費増の内容について伺う。



放牧中の遠野牛

**答** 用地測量・キャトルセンター用地造成・道路改良等に伴うものである。

**問** 畜産農家と連携した事業展開を図るといふことであるが、今回の災害等を考慮した事業の取り組みか。また、公共牧場の機能強化がキャトルセンターと連動するものは考えにくい。

**答** 長期的な展望に立ち計画を進めたい。また、冬場の委託を含め、遠野の広大な牧野を利用した体制を確立し、畜産振興を図っていきたい。

**問** タフ・ビジョンの考え方としては、整備から30年経過し利用頭数が確保されておらず、地形的な問題から未利用などの現実があり、具体的な草地整備にどう取り組むのか。また、キャトルセンター利用をどの程度見込んでいるのか。

**答** 草地の集約化を図り、集中的に管理できる

よう整備したい。また、畜産農家の増頭に対応し、分娩時等の定期的委託にも対応したい。本市における畜産振興を図る上で、繁殖肥育販売まで一連の体制を整備し遠野牛の銘柄確立を図るため、夏期放牧から冬期間委託できる施設整備が必要であり、農家との話し合いや、研修を踏まえ現在業者と事前協議中である。

**問** この事業にかかわる人材の育成確保は。

**答** 緊急雇用対策により、事業にかかわる研修に2名が参加しており、更に技術的研修を実施し人材を確保したい。

**問** 県内には4ヶ所のキャトルセンターが稼働しており、有効に機能していると聞いている。今般の災害により、畜産農家・農業に重い陰を落としているもの、これから展望が開けると思っているもの、農業・畜産の振興なくし